

（管理規則第3条実施要領 別紙様式）

2015年度（平成27年度）学校評価自己評価表

I 福山市 めざす子ども像

福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 中学校区

1 めざす子ども像

地域を愛し、誠実に生きるたくましい子ども
「至誠の人になろう」（しっかり学び 積極的なあいさつのできる いつも元気な児童・生徒）

2 児童生徒の現状

・全体的には一定の基礎的な学力の定着は見られるが、児童生徒の学力は中間層と低位の層に二極化している。「決められた時間学習する」については、児童・生徒の達成率は小学校で 88%、中学校で 60～88%である。時期により学習時間にばらつきがあることや学年を追うごとに学習習慣の定着が低くなることが課題である。また、思考力・表現力を要する問いでの正答率は 60%を下回っており、多くの生徒が公的な場でのコミュニケーション能力が低い。

・地域では積極的にあいさつができ、全般的に規範意識は高い。しかし、固定化された人間関係の中で易きに流れる傾向が強く、自己効力感(自尊感情)が低いことや集団づくりに課題がある。

・運動能力面では持久力は非常に高いが、柔軟性と瞬発力に依然として課題がある。朝食の摂取率や「早寝・早起き・朝ご飯」など基本的な生活習慣はほぼ定着しているが、学年を追うごとに未定着の率が上がっていることが課題である。

・小中一貫教育を進める中で、「自分の住んでいる地域が好き」と答える児童は 90%を超えている。地域の特色として環境問題への関心が高く、小中で連携して取り組みが行えるようになった。

3 課題

○基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着と思考力・表現力の向上を目指す授業
○基本的生活習慣や学習習慣の確立、感性豊かな児童生徒の育成

III 自校

1 学校教育目標

よく学び 人間性豊かなたくましい山南っ子の育成

2 経営理念

（1）中学校区における自校の使命（ミッション）

確かな学力・豊かな心・健やかな体を持つ児童を育成し、保護者・地域に信頼される学校となる

至誠中学校区	校番 73	福山市立山南小学校
--------	-------	-----------

（2）使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像（ビジョン）

- 1 知：思考力・表現力を育成する。
- 2 徳：ふるさとを愛し、ふるさとに貢献し、児童の自己効力感（自尊感情）を育成する。
- 3 体：体力と心身の健康を向上させ、生きる力を育成する。

3 前年度重点目標と達成状況

前年度重点目標	達成状況
小中一貫教育の創造 ①学力向上	・国語科・算数科の授業研究を行い、授業力向上を図ると共に、課題のある所を中心に問題を作成した校内テストに取組んだが、結果は十分でなく「基礎・基本」定着状況調査では県平均を下回った。
②校区スタンダードの充実	・ステップアップあいさつに取組み、あいさつの質の向上が見られた。返事の定着はまだ十分とはいえない。
③ふるさと学習の推進	・地域と共にふるさと学習に計画的に取組み、アンケートで「地域が好き」と答えた児童が93%になった。「感謝のつどい」等で感謝の発表し、地域・保護者からの信頼も大きい。

4 本年度重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
小中一貫教育の創造 ①学力向上	・国語科を中心に各教科・領域において言語活動の充実を図り、思考力・表現力を育成する。
②校区スタンダードの充実	・至誠中学校区スタンダード、特に「あいさつ・返事」に重点的に取り組み、児童の規範意識と思いやりを育てる。
③ふるさと学習の推進	・ふるさと学習で体験活動を行い、ふるさとに貢献する場、発信の場を設け、児童の自己効力感（自尊感情）を育成する。

5 前年度の学校関係者評価結果を踏まえた改善点

- ・知：基礎・基本の定着については継続して取り組んでいくこと。各種調査問題の結果分析を生かしながら、高校入試に通用する学力をつける。
- ・徳：「あいさつ・返事」の取り組みの根底には他人を思いやる心を育てるという視点をもつこと。
- ・ふるさと学習：「中学校区として環境学習に取り組んでほしい」という地域の要望にしっかりと応えていく。9 年間の系統性を大切にすること。

※ 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

自己評価（最終）の基準は、2月20日までの計画に対する達成状況とする。

IV 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目 標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
確かな学力	2	○基礎的・基本的な学習内容の定着と論理的思考力・表現力を育成する。		見直し	○「基礎・基本」定着状況調査、全国学力テストの結果の改善を図る。	B	△「基礎・基本」定着状況調査(5年)、全国学力テスト(6年)の結果を県平均以上にする。 △国語、算数、理科において単元末テストの正答率を各教科、低90%、中85%、高80%以上にする。	a b	□「基礎・基本」定着状況調査 国76 算71 理71(算数以外達成) 全国学力テスト 国A78 B75 算A83 B47 理64(すべて達成) □単元末テスト平均正答率 低88 中79 高82(高学年のみ達成) ○表現力に課題があり、単元末での学習内容習得率に差が見られる。 ◎学び合う学習活動の充実による意欲喚起と完全習得型授業の充実。
豊かな心	2	○ふるさとに愛着と誇りを持ち、規範意識と自尊感情を高め、自分の思いや考えを表現する児童を育成する。	★	見直し	○総合的な学習や特別活動等とふるさと学習の関連を明確にし、内容をより効果的なものにしていく。	A	△「ふるさと山南は好きですか」という児童アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	a	□「ふるさと山南は好きですか」の肯定的評価は93%(達成)である。 ○地域の方の協力を得ながら「ふるさと学習」を進める中で、思いや願いを知ることで「山南が好き」と思える児童が増えている。 ◎「ふるさと学習」副読本を効果的に活用し、総合や生活科の授業で地域の方に協力していただく学習をさらに充実させていく。
			★	見直し	○校区スタンダードの中で「あいさつ・返事」を重点的に取り組み、友達に優しい声かけができる児童を育成する。	B	△年2回のQ-Uアンケートで、学級生活満足群に属する児童を全学級70%以上にする。 △「あいさつができる」「返事ができる」というアンケートの肯定的評価を85%以上にする。	a b	□Q-Uアンケート結果 学校生活満足群児童 71%(達成) □「あいさつができる」85%(達成)、「返事ができる」81%(やや課題) ○自己効力感が高められるように、学級で仲間づくりを進めるとともに、児童会を中心としたあいさつ運動により、改善が見られた。 ◎学級集団作り等の充実を図り、学校生活満足群に属する児童を増やす。
健やかな体	2	○心身共に健やかな児童を育成し、体力の向上を図る。		新規	○新体力テストで県平均より下回っている種目を向上させる。	A	△新体力テスト県平均達成種目数を50%以上に高める。 △「体育が楽しい」という児童アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	a a	□新体力テスト県平均達成種目数 53%「体育が楽しい」97%(共に達成) ○各学級に新しい長縄跳びやボールを配布し、全校遊び等で運動の機会を増やした。外遊びが増え、「体育が楽しい」と感じる児童が増えた。 ◎課題となる柔軟性を高める運動を授業や家庭でも行うよう図り、体を動かすことが楽しいと思えるように意欲を喚起するとともに運動の機会を増やし、「体力づくりカード」を活用した取組をさらに充実させる。
				継続	○基本的な生活習慣を定着させる。	B	△給食後の歯磨き習慣を身に付けた児童を80%以上にする。	b	□給食後の歯磨き習慣を身に付けた児童 49→75%(課題) ○「歯磨き週間」を設け、学校全体としてや個別の取組を充実させることにより、意識が高まり、定着しつつある。 ◎学校全体での取組をさらに充実させ、課題となる児童には、個別に対応していく。
力量ある教員	2	○「子どもたちが自ら考え学ぶ」授業づくりを小中一貫教育で推進し、教員の授業力向上を図る。	★	見直し	○付けたい力を明確にし、めあてとまとめの整合性がある授業を行う。	B	△国語・算数・理科の授業について、「授業が楽しい」「授業が分かりやすい」というアンケートの肯定的評価を85%以上にする。	b	□「授業が楽しい」国82 算81 理98(理科のみ達成) 「授業が分かりやすい」国93 算92 理99(全教科達成) ○付けたい力を明確にした教員の授業力は学校全体として高まってきた。 ◎単元のゴールを見通した単元計画をもとに、付けたい力を明確にし、めあてとまとめの整合性がある授業づくりをさらに充実させていく。
校 頼 市 民 から 信 頼 され 学 校 へ	2	○校区で組織的に小中一貫教育を推進し、保護者・地域に信頼される学校を作る。		見直し	○小中一貫教育の取組をはじめ、教育実践の効果的な情報発信を行う。	A	△小中一貫教育及び情報発信に対する保護者アンケートの肯定的評価を85%以上にする。	a	□保護者アンケート「小中一貫教育」90%「HPや便りで情報発信」98% ○小中一貫教育に対する肯定的評価は高まってきたが、無回答もみられる。 情報発信については、学校・学年便り等、充実した取組となっている。 ◎ホームページを改善し、学年便り等タイムリーに情報発信を行っていく。

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)